

阿賀野川下流 (新潟市)

■環境：河川
 ■対象：一般 家族
 ■期間：2～6月下旬
 9～11月中旬

栃木・福島県境に発した阿賀野川は、悠々210kmを流れて新潟市に達し日本海へと注ぎ込む。河口とその周辺には砂州、中州、アシ原があり、四季を通じて観察できる。河川敷には公園もあり家族連れでも楽しめる探鳥地。

〈川の中州はサギ類の集団繁殖地〉

川岸のヤナギが柔らかな緑に包まれるころ、アオサギやゴイサギが子育てのため通称大島と呼ばれる中州にやってくる。ここで繁殖するサギ類は全部で6種、推定2000羽以上がひしめきあって暮らす県内屈指のサギのコロニーとして知られている。

下流部右岸の堤防に沿って胡桃山排水機場を目指して進み、着いたら付近に車を止め堤防の上や中腹から観察を始めよう。往来する車の中には高速で通過するものがあるから要注意。4月下旬では、サギ類はまだ少ないが、望

遠鏡を使えば木のこずえ付近の巣で卵を抱くアオサギの姿や鉄塔で休むカワウの姿も見つけることができる。一方に目をやると、渡り遅れたカモ類やカムリカイツブリが水面で憩い、アシ原やヤナギのブッシュではオオ



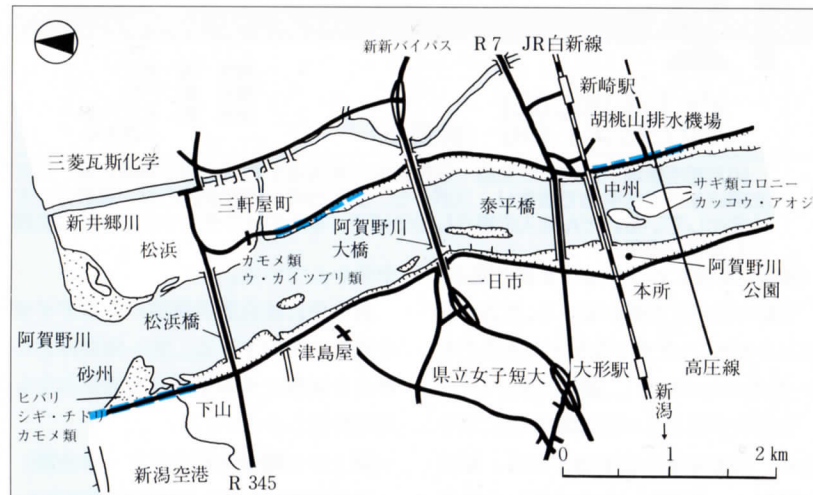
松浜三軒屋付近から阿賀野川を望む

ジュリンやアオジも姿を見せてくれるはずである。

観察に最も適した時期は5・6月の早朝から午前9時ごろまで。サギ類がひっきりなしに中州から飛び立ち、舞い戻ってくる様子が観察できる。付近では、オオヨシキリ、コヨシキリ、カッコウ、ホオアカなどが高らかにさえずり、中州からはクロツグミの歌声すら聞こえてくる。水辺では、カルガモ、バン、ヨシゴイ、ササゴイ、カイツブリが繁殖している。

〈運がよければワシ・タカ類も〉

J R白新線の鉄橋付近ではチョウゲ



ンボウが常連のように姿を見せ、ハヤブサ、オオタカ、チュウヒ、ミサゴなどの猛禽もエサを求めてしばしば飛来する。

〈冬から春は松浜でカモメ類を観察〉

右岸の堤防を松浜に向かって進み、三軒屋町付近から岸辺の水制（くいの列）を見下ろすと、新井郷川との合流部でカモメ類、カワウ、ハマシギなどがくいの上で休眠しているのが観察できる。真冬にはシロカモメが交じっていることもある。

〈歩いて鳥を見たい人は河口方面へ〉

初夏のころ、下山付近から左岸を河口方向へ進み、車止めから新潟空港を左に見ながら河口の砂州まで散策する。広大な景色を楽しみながらゆっくり進むと、ヒバリ、オオジシギ、カイツブリ

リ、シロチドリなどにも出会えることだろう。

(千葉 見)

メモ

交通 車が最も便利。地図をみて堤防へのアクセスを調べておくとうまい。J R新崎駅下車、徒歩で西へ約20分。

☐ 駐車場はないので、道路沿いの空き地や河川敷を利用する。本所の阿賀野川公園には駐車場と簡易トイレがある。

探鳥会 いいがた野鳥の会主催のミニ探鳥会が、例年6月初旬に開かれる。問い合わせ先：いいがた野鳥の会伊藤泰夫

☎025-266-8972

道草 松浜町内では定期市が開かれる